

古河電気工業らのらくらくアルミケーブル

官公庁設備に初採用

JIS認証取得に向け活動

古河電気工業と古河電工産業電線（東京都荒川区、白坂有生社長）が開発した高機能型低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」が、官公庁の電源供給用設備に初採用された。官公庁案件はこれまで銅導体ケーブルが主流だった。アルミ導体ケーブルはJISマーク認証を受けていないものの、銅導体ケーブルと同水準の品質と発注者が判断し採用に至った。

らくらくアルミケーブルを採用した設備工事では、延線作業の時間が予定に対し3分の2に短縮でき、作業効率の向上に貢献したという。施工した栗駒電気工事（東京都足立区、佐藤良雄社長）の業者からは「軽くて柔らかいため取り回しがやすく、延線や盤への挿入も楽だった」との声が寄せられた。

今後はJISマーク認証の取得に向けた活動やオンラインでの商品説明会を行う。昭和電線ホールディングスと古河電工の共同出資会社、SFCC（川崎市川崎区、黒須光明社長）が販売と製造を担当。全国6カ所の物流拠点と5カ所の製造拠点を設ける。販売物流の効率化とサービスの向上を図る。2024年度までに売上高20億円を目指す。

らくらくアルミケーブルは銅製CVケーブルに比べ軽量で柔らかく、アルミ導体を覆う絶縁体も剥ぎ取りやすい。アルミ導体専用端子や、分電盤に取り付けるためのアルミ端子台、絶縁体とアルミ導体の酸化被膜を同時に剥離する専用工具などを用いて施工する。通電容量が同等の銅製CVケーブルと比較してサイズは大きくなるものの、約30%の軽量化を実現している。

